

# 長崎 検 定

## 一級 さん

Vol.38

### 観光新時代への期待と課題

ふじさわ  
藤沢

ひでのり  
英典さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。  
ざっくばらんに寄稿願いました。

長崎検定を受けようと思ったのは、体調を崩し定年まで3年を残して退職してからのことです。退職後は体力の回復に努めていましたが、徐々に元気になっていく中で時間だけが過ぎていくもどかしさを感じるようになりました。このため、まず取り組んだのは、体調を崩す前に挑戦していた世界遺産検定でありました。2級まで合格していたので、1級の合格を経て、平成24年12月にマイスターに合格しました。

その後考えてみると、世界の貴重な財産については知識を深めたが、最も身近な所である長崎市についての知識が乏しいことを痛感し、長崎市の歴史や文化など全般的な知識を学ぶことができる長崎検定を受験することにしました。

平成26年に2級に合格した後、1級の問題を見た時には合格は到底無理だと思いましたが、3回目の挑戦で合格することができました。

長崎検定を通じて感じたことは、長崎市も同様の傾向ではありますが、21世紀における日本経済をリードしていく産業として、産業の頂点を過ぎた

といわれる製造業や金融業に代わり、観光産業が主要な産業の柱となりうると期待されていることです。

理由としてはふたつのことが考えられています。ひとつは、平成28年に我が国を訪れた外国人旅行者は、史上初めて2000万人を超え、2404万人となるとともに、その旅行消費額も過去最高であった平成27年を更に上回り、3兆7476億円となる等、旅行需要が確実に増大すると考えられること。もうひとつは、大規模な公共事業や企業誘致が難しくなる中、地域振興という観点から、観光客が増えることが地域活性化につながる数少ない振興策と考えられているからです。

こうした状況の中で、地域の観光活性化という側面からいえば、世界遺産を持つ地域にとつて、その活用は不可欠なものとなっています。また、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されているMICE事業については、長崎市においても推進計画が検討されてお



#### 【プロフィール】

1953年 佐世保市生まれ。

元地方公務員

毎年のように国内、海外を問わず旅行していたが、体調を崩した後はテレビや旅行雑誌で最新情報をチェックしている。

2012年12月 世界遺産検定マイスター合格。

※観光庁ホームページより抜粋

[http://www.mlit.go.jp/kankochu/page03\\_000049.html](http://www.mlit.go.jp/kankochu/page03_000049.html)

りますが、国が選定した\*グローバルMICE都市の12都市（東京都、横浜市、京都市、神戸市、福岡市、名古屋市愛知県、大阪府大阪市、札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）の動向も見極めながら、長崎市らしさを前面に出して事業を推進していただきたいと思っています。

最後に、来年（平成30年）6月、中東のバーレーンで開催される世界遺産委員会において審査対象となる「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録の吉報を期待しております。